

## 平成29年度 第2回 青少年問題協議会記録

1 日時 平成30年1月31日(水) 9:30~11:00

2 場所 市教育総合センター 3階 第一・二・三研修室

### 3 出席者

(委員 21名)

武隈委員、西原委員、松田委員、中田委員、迫田委員、松高委員、手嶋委員、坂尾委員、海江田委員、坂元委員、川島委員、瀧川委員、黒木委員、杉元委員、和田委員、吉村委員、田畑委員、中野委員、平田委員、中崎委員、谷口委員

(幹事 7名)

大山幹事、大野幹事、伊瀬知幹事、井手上幹事、中村幹事、米森幹事、吉松幹事

### 4 会順

(1) 開会のあいさつ

(2) 第1回青少年問題協議会協議内容・会議経過報告

(3) 協議

① 平成29年度青少年健全育成事業等の実施状況

② 平成29年度青少年問題協議会専門委員会の報告等

③ 平成30年度青少年問題協議会の会議計画(案)

④ その他(情報交換)

(4) 閉会のあいさつ

### 5 協議内容

① 平成29年度青少年健全育成事業等の実施状況

(事務局)

資料に基づき、説明。

(委員長)

様々な関係機関が青少年の健全育成において、重層的に環境づくりに取り組んでもらっている。

(委員)

本校で10月24日(火)に行われた市道徳教育研究会では、学校、地域、保護者連携部会において、PTA会長が説明をするなど、民生委員も参加し、盛大に実施できた。相互の連携を図ることで、道徳教育の重要性を認識する機会となった。

(委員)

先日、学校において、ライオンズクラブも一緒になって、薬物乱用防止教室を実施した。活動では、生徒同士のロールプレイングで行い、「自分の意志で自分を守る」ということを理解してもらえたと考える。会の後、生徒の質問が続くなど、興味・関心も高いものとなった。

(委員)

校区コミュニティ協議会が主催し、中学校2年生を対象に、小学校区で「立志のつどい」を実施した。内容は、冬休み中に「自分の夢」というテーマで、色紙に書いてもらい、当日、会場に掲示した。ほぼ全員の提出があった。夢の内容は、高校に合格するなど直近のものや、大学進学や成りたい職業についての進路に関するものがあった。その中の2人の生徒に自分の夢について、その想いを語ってもらった。医学部を目指している生徒は、バスケットで怪我をして病院に行ったところ、自分の治療に当たる医師を見て、自分も「人を助ける」力になりたいという願いをもったという。また、キャビンアテンダント(CA)を目指す生徒は、幼き頃、姉妹で不安いっぱい飛行機に搭乗した折、CAからやさしく言葉をかけられ、一気に不安がなくなって楽しい旅になったという経験から、CAへの強い憧れをもったという。

夢を書いた子供達のどの夢も一つ一つすばらしいものであると感じた。ただ、その後の講演を聴く際の態度で少し気になることがあった。参加した子供達の多くは、小学校時代によく知っている素直な子供達であった。その子供達が、1年10か月を過ぎると、このように変わってくるものかとも思った。自分は、彼らをいつまでも小学校時代の視点で見ているのかもしれない。今後は、子供達の成長を踏まえた対応がさらに必要であると感じた。

## ② 平成29年度青少年問題協議会専門委員会の報告

(専門委員長)

資料に基づき、説明。

(委員)

リーフレットは、子供の言葉で表現されており、中味が充実していると思った。質問であるが、これは誰に対してのものとなるか。

(専門委員長)

子供達、保護者、学校の教師、地域の方々など、全ての人を対象となる。このリーフレットを活用して、健全育成に活かすことがねらいである。子供自ら、4つの力(関係をつくる力・関係を修復する力・助けを求める力・関係を調整する力)を理解し、活かせるようになったら最良である。地域では、リーダー育成に役立ててもらいたい。

(委員)

子供だけに配布しっぱなしでは、難しい部分もあるのではと思ったので質問した。実際には、リーフレットをどのように活用されるのか。

(事務局)

別紙、「リーフレットの活用」にあるように、例えば、家庭では、「家族でリーフレットを話題に話し合しましょう。」「家庭教育学級やPTAの資料に活用しましょう。」と。学校では、「『4つの力』の意味を考えたり、必要な時に『ごめんね』『助けて』と言える方法を考えましょう。」と。地域では、「話し合いの際に、リーフレットを読み合ったり、地域行事の中で、『4つの力』を発揮できる場を探しましょう。」といったことになる。

何より子供達にリーフレットを見て、感じて、考えてもらいたいので、学校には、リーフレットをデータでも配布し、それぞれの発達段階に応じて、□ぬきにして書き込んでもらったり、標語を大きくしたりなど、加工して、活用してもらいたいと考えている。

(委員)

学業もスポーツも頑張っていた中学2年生の生徒が、途中から学校に行けなくなっていた。その生徒に対し、「君が来ないとさびしいよ。学校に来ない？」といった同級生からの声かけが救いとなり、徐々に学校に学級になじめる様になり、立ち直ったという例を知っている。「同級生の友達への関わり方」がとても大事だと感じている。

先般、イタリアに行き、日本人学校を見る機会があった。そこで感じたのは、郷中教育である「異年齢集団による教え合い」のすばらしさであった。また、今の若者に、日本人の掃除の習慣であるとか、家庭での”気”(環境づくり)が必要であることを痛感した。

イタリアでは、電車に乗ると、高齢者の子供へのまなざし(見る目)が、実に温かい。滋養に満ちた温かい家庭での生活が、青少年を育てていく上では、大切であると考えている。

(委員長)

「助けが必要な人を支援・サポートする」ことは、よく言われることであり、必要なことであるが、それをネット世代の人間関係に必要な力として、「助けを求める力」とした所が興味深い。また、「関係を調整する力」は、保護者や地域の人が必要な力でもあると考える。

### ③ 平成30年度青少年問題協議会会議計画(案) → 承認

(事務局)

資料に基づき、説明。

#### ④ その他（情報交換）

（委員）

助けを求める力が必要だし、助けを求められる所が必要である。法務局には、人権110番（0120-007-110）、子ども人権メール、SOSミニレター等がある。また、人権擁護委員と一緒にN T T等と連携しながら、人権教室で、人権に関わるインターネットの使い方や対応の仕方を実施している。

プライバシー保護には、細心の注意を払いながら情報を受けるが、命に関わるような内容については、迅速な対応を取る。SOSミニレターは、年間、全国で200通ほど来ている。その7割が小学生である。法務局が、個人情報に関わるメールの削除を本人に代わって管理者に要請する場合もある。

（委員）

近頃の事件から、来年度に向けて考えてもらえればと思う。それは、人を刺すような事件である。子供達が何を抱えているのか、積もり積もって、大人になって爆発するのか、「やってはいけないと分かっているがやってしまう」ということなのか。分からない。交通妨害の事件についてもしかりである。

学校や家庭、地域で、本気で考えて取り組んでいく必要があると考える。例えば、怒りをコントロールできない青少年にどう対応していくかについて、みんなで考えていく必要があるのではないか。

（委員）

特に、今、地域において「関係を調整する力」が求められているように考える。

例えば、小学校低学年同士のトラブルにおいて、周りが情報を共有し、それぞれの方が役割を果たすこと、つまり互いの関係を調整することで、解決に向かうことができるのではないかと思う。

（委員長）

まもなく開催されるオリンピックが生まれたねらいは、まさに、「若者（青少年）の健全育成」であった。しかしながら、相撲協会での暴力事案に見られるように、身体接触を伴うスポーツと暴力は、どうしても関係が出てきてしまう確率が高い。

けれど、平成25年に、日本体育協会や日本オリンピック委員会や高校や中学校体育連盟等の連名で、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を出している。スポーツにおける暴力行為は、「起こしてはならない」と宣言している。

（委員）

「こころの言の葉」、17、335点全てがよい作品である。子供を育てる上での一番のよい環境は、親子関係である。長らく編集委員をさせてもらっている経験から思うに、「こころの言の葉」には、子供達の本音や本当の姿を見ることができると思う。時代は変わろうとも、子供達の「心の根」は変わらないんだと強く思う。だからこそ、地域の方が、子供達に関心をもって、子供達のよさを知ってもらうことが大切である。そのような意味からも、この「こころの言の葉コンクール」の作品集をぜひ、多くの人に広げていければと考える。それが、青少年の健全育成における環境整備につながっていくと思う。

(委員)

リーフレットは、是非、発達段階に応じて、教え、考える機会にするなど、活用を図ってもらいたい。

学校は、生活習慣を築く場であり、人間関係力を培う場でもある。そういう役割はよく分かるのであるが、それらを指導する先生方の多忙化は、目に余る。今、働き方改革が話題となっている。部活動などは、特に課題となるのではないか。部活動を通して人間関係力を培う面もあるし、かといって、指導する側の負担も増えてしまうと言う側面もある。今後、部活動の在り方は、どのように進んでいくとお考えだろうか。

(委員)

今は、中学校の部活動だけでなく、小学校の音楽系のサークル活動等も盛んになっている所もある。その意味では、先生方に対して、地域や保護者の方々が期待している部分も大きいものを感じる。一方で、働き方改革の観点から考えるに、先生方の労働時間と対価などの課題についても考えていく必要がある。そのための慎重な審議が必要であり、地域の実態を十分に踏まえた対応をしていくことが大切であると考えている。

プロ野球の世界では、以前、ピッチャーは、「先発・完投」が美学であった。しかし、野村監督などが、「先発・中継ぎ・抑え」というある意味、分業制を話題にした際には、世間からかなりの批判を浴びた。ピッチャーの美学に反するというわけである。しかし、現代は、「先発・中継ぎ・抑え」は、当たり前のようになっているのではないか。そういった意味では、部活動の在り方については、国や県の動向を注視しながらも地域の独自性をしっかりと踏まえて、学校内でも議論を進めていく必要があると考えている。

(委員長)

委員の皆様から貴重なご意見や取組の状況等についての紹介もあり、大変意義のある協議がなされた。

本日いただいた意見や提言については、それぞれの機関・団体等と連携を図りながら、今後生かしていきたいと考えている。